

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン、具体的な手だて）
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業者の説明が、全体指導だけでは理解しきれない児童がいる。</li> <li>自分のイメージを持つことに時間がかかり、制作にスムーズに入れない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できる限り分かりやすい説明を心掛ける。（実物进行操作する、投影機やプロジェクターで手元をわかりやすくするなど）さらに、友達同士での教えあいなどの姿を称賛し、分からないところを児童同士で補えるように育てていく。</li> <li>手が止まっている児童を見つけたら、今何を考えているかを聞き出し、自分のイメージを持つように支援する。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>つくり方や、工作の仕組みを、自分から見つけに行く力を育みたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業者からの説明で全ての作り方を教えるのではなく、「この場面はどういう仕組みになっているのか、なぜ解きを試みよう」という投げかけなどで、児童がつくり方や仕組みを自分から見つけに行く機会を設ける。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>早く完成する児童とそうでない児童の進度差があり、早く完成する児童にはより良い作品を目指させたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ここを頑張るとさらに作品がよりよくなるポイント」を全体指導で周知することで、進度が早い児童は「自分は早い方だからここはこだわってみようかな？」と思えるようにする。さらに、個別のアドバイスや励まして、さらによりよい作品になるように支援する。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「今日の授業で完成させる」という時に、時間内に完成させられない児童がいる。「もっとここを付けたい」「ここが寂しいから何か描かなきゃ」という思いになって、授業時間内に満足した状態で完成を感じるできない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回指導計画を示し、「あと〇時間で完成させる」と予告をする。さらに、「今日はここまでできているようにする」など具体的に、進度のイメージが持てるようにする。「今は考えている時間」という場合、どういう考えにまとまったか結果を確認し、制作が進められるように支援する。</li> </ul>